アーバンスポーツを活用した地域活性化について

次に、アーバンスポーツを活用した地域活性化についてお尋ねします。

　アーバンスポーツとは、アーバン、すなわち都市型スポーツの総称で、広い場所を必要としない、１人でも気軽に始められる、ファッション性が高いなどの理由で、若者を中心に非常に人気が高まっているスポーツであり、スケートボード、スポーツクライミング、自転車ＢＭＸ、３人制バスケット、パルクール、インラインスケートなどの競技があります。

　以前は若者の遊びとみなされていましたが、一昨年の東京オリンピック 2020 において４種目が実施され、日本選手が金メダル３、銀メダル２、銅メダル２、入賞７と大活躍したことで、一気に市民権を得て競技人口が急拡大し続けている、今注目のスポーツになっています。

　他方、アーバンスポーツの中で、特にスケートボードは、私の地元山鹿市でもそうでありますが、公園利用者とのトラブルや深夜の滑走による騒音問題など、近隣の住民との問題もあると聞き及んでお

ります。

　そのため、熊本市では、熊本県スケートボード協会の要望を受け、昨年 12 月、アクアドーム駐車場の一部を開放したほか、民間でも、スケートボードなどを楽しむストリートスポーツ施設がオープンするなどの動きも出てきております。

　今後は、さらにアーバンスポーツのより一層の拡大が予測される一方、九州内には、大規模大会や日本代表選手合宿等を誘致できる本格的なアーバンスポーツ施設がない状況にあります。

　若者のスポーツ離れに危機感を抱く国際オリンピック委員会では、従来の伝統的なスポーツ競技に加え、これからも世界の若者に人気のあるアーバンスポーツの取り込みを進めていく方針であり、2024 年のパリオリンピックでは、スケートボードやＢＭＸに加えて、ブレイキン――ブレイクダンスやパルクールといった新しい競技を追加することを決定しています。

　このように、今後さらなる競技人口の拡大が見込まれるアーバンスポーツには成長の可能性が大きく、それを活用した誘客策は大きな可能性を秘めていると考えます。

　私は、熊本県にアーバンスポーツパークが生まれて、九州、いや全

国、そして世界から競技者と観客がやってくることを夢見る一人ですが、このアーバンスポーツが持つ可能性を本県の誘客促進の一方策として生かしていくためには、どのような取組を行っていくのか、また、どのように地域活性化につなげていくのか、観光戦略部長にお尋ねいたします。

◎観光戦略部長（原山明博君）　本県では、2019 年のラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権大会の経験を踏まえ、スポーツの力を県の活力につなげるため、昨年 11 月に熊本県スポーツツーリズム戦略を策定しました。

　この戦略の中で「集客力があり、参加できるスポーツ大会の誘致」を柱の一つに掲げ、将来性の高いスポーツとして、アーバンスポーツの大会、合宿等の誘致に積極的に取り組むこととしています。

　アーバンスポーツは、スケートボードやＢＭＸをはじめ、街中での遊びから派生した新たなスポーツとして、ファッションとも連動する形で若者や子供たちに浸透しています。昨年の東京オリンピックでの日本人選手の活躍に刺激を受ける形で人気に火がつき、競技人

口が拡大する傾向にあります。

　県内においても、新たな子供向けのスケートボード教室や大会が開催されているほか、スケートボード関連用品の売上げが増加するなど、盛り上がりを見せています。

　また、氷川町在住の小学５年生のスケーター、松本雪聖選手が、2021 年の小学生以下の全国大会で女子２位となるなど、近い将来、世界で活躍する選手の誕生も期待されます。

　一方で、議員御指摘のとおり、九州内には、大規模大会等を開催できる本格的な施設は存在しません。他県に先駆け、本県に施設ができれば、大規模大会やプロ選手の合宿を誘致する上で大きなアドバンテージになります。また、不足している練習場所としても利用できます。

　このような中、アーバンスポーツの大会、合宿等を誘致し、本県への誘客の起爆剤としていくためには、若者や子供のみならず、より幅広い世代に対して、認知度向上を図っていく必要があります。

　そのため、来月の 10 月９日と 10 日の２日間、県民総合運動公園に特設会場を設置し、世界大会等で活躍するスケートボードとＢＭＸのプロ選手を招聘したエキシビションと体験会を開催します。プ

ロ選手のすばらしい演技を間近で見たり体感したりしていただくことで、多くの皆さんにその迫力や面白さを感じていただけるものと思います。

　若い世代の新しい期待に応えるべく、革新性を掲げる2024年のパリオリンピックに向け、より一層の盛り上がりを見せるアーバンスポーツが、本県の新たな観光の柱となるよう、しっかりと取り組んでまいります。

◆（渕上陽一君）　部長より、アーバンスポーツについて、しっかりと積極的に誘致をしていくということでありましたし、また、九州内には大規模大会等を開催できる本格的な施設もありませんし、他県に先駆けて本県に施設ができれば、大規模大会やプロ選手の合宿の誘致をする上で大きなアドバンテージになるという答弁もいただきました。

　まさしくそのとおりで、今、誘客の起爆剤となる、他県に先駆けて実現に向けてしっかりと取り組んでいくことが必要であろうというふうに思いますので、ぜひともしっかりと頑張っていただければと思います。